

長崎医専卒 末永 敏事医師についての講義を開催

10月14日(木)、医学部第2講義室において、1942年(大正元)年長崎医専(本医学科の前身)卒の末永 敏事(すえなが・びんじ、1887年~1945年)医師についての講義を開催しました。

本講義は、長崎新聞社の森永 玲氏が講師として、本医学科のOBにあたる末永医師の生涯やその功績を現役学生にも知って欲しいという目的で、医学科2年生の約120名が「医と社会」の授業の一環として受講しました。

末永医師は、長崎県北有馬村出身で、大正から昭和初期にかけて米国で活躍した結核研究者です。大正期に米国の医学会で活動できた日本人の結核研究者は稀であり、将来を嘱望されていましたが、帰国後、日中戦争に公然と反対し思想犯となり、歴史の陰に埋もれ、末永医師の存在そのものが戦後70年の間、忘れられていました。

この度、末永医師の生涯を掘り起こした『反戦主義者なる事通告申上げます—反軍を唱えて消えた結核医・末永敏事』(著者:長崎新聞社 森永 玲氏)が刊行され、その一部を学生に配付いただきました。



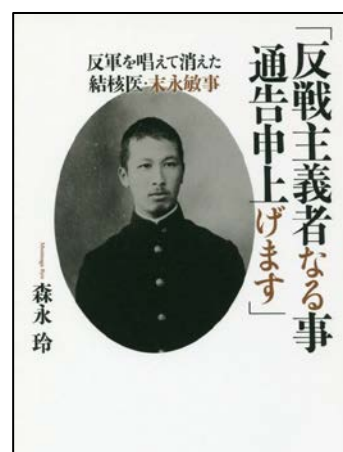
挨拶を述べる前村医学長



講義を行う長崎新聞社 森永 玲氏



講義の様子



刊行された著書